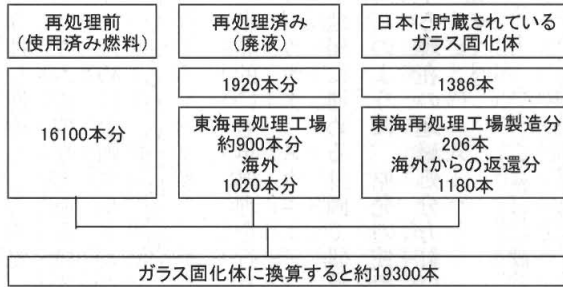


ガラス固化体での処分は可能か

百万kw級の原発を一年間動かすとガラス固化体約三
十本相当の使用済み燃料が発生します。大変な毒物で



(2005年12月末現在)

ある高レベル放射性
廃棄物を、これまで
の原発の利用でどれ
だけ作り出してしま
ったのでしょうか。
上図のようにすでに
ガラス固化体にして
二万本近くに達して
います。しかしガラ
ス固化体になったも
のはそのうちのわず
かにすぎず、使用済
み核燃料の段階のも

のがほとんどです。

ガラス固化体は再処理をしないと作れませんが、再
処理の目的はガラス固化体を作ることではなく、プル
トニウムを取り出すことにあります。我が国はわずか
八キロもあれば原爆が造れるとされているプルトニウ
ムを、○五年時点ですでに約四四トンも保有していま
す。六ヶ所再処理工場がフル稼働すれば年八トンもの
プルトニウムが取り出されます。再処理をしてプルト
ニウムを取り出せば取り出すほど余剰量が増えること
は明らかです。

現在示されている処分場案では、ガラス固化体を四
万本埋設するとしています。二〇二〇年末頃の発生量
がそれぐらいになるとの計算と、四万本規模の処分場
を作れば一本あたりの処分費用が一番安くつくとの理
由です。しかし、ガラス固化体が四万本発生するだけ
再処理を行えば、プルトニウムは核爆弾五万発分以上
に相当する四百〇四五十トンも供給されます。プルサ
ーマル計画(注1)や高速増殖炉(注2)開発を無理

やり押し進めたところで、このような莫大な量のプルトニウム需要などあるはずがなく、軍事的緊張を招かないために余剰プルトニウムを持たないという国際公約を守るためには再処理政策を見直すしかないのです。

世界的にも再処理を行う国は限られており、アメリカ、カナダ、スウェーデンなどは使用済み燃料の形態で地層に埋める計画で研究が進められています。

このように、原発の使用済み燃料の再処理を前提とする現在の地層処分方針は、その前提条件が崩れているのです。

(注1) ウランを燃料に設計された普通の原発で、プルトニウムを混ぜたMOX燃料を用いる計画。

(注2) プルトニウムを燃料として燃やしながら、増殖させようという原子炉。ナトリウム火災事故を起こした「もんじゅ」

はその原型炉。○六年十月に閣議決定された「原子力政策大綱」では二〇五〇年頃からの商業ベースでの導入を目指すこととされているが、海外の主要国は開発を既に断念している。

各国の高レベル廃棄物処分計画

国名	処分対象	処分候補地	現状
アメリカ	使用済み燃料 軍事用は固化体	ユッカマウンテン (凝灰岩)	裁判やデータ捏造発覚で許認可申請遅延
カナダ	使用済み燃料	未定	候補地選定計画停止
スウェーデン	使用済み燃料	未定	候補地選定中
フィンランド	使用済み燃料	オルキオト (花崗岩)	地下研究施設建設中
ドイツ	使用済み燃料 ガラス固化体	ゴアレーベン (岩塩)	調査中断中 処分開始年未定
フランス	使用済み燃料 ガラス固化体	未定	候補地選定未着手